

奄美大島・喜界島農業の動き

■令和8年7月

1 奄美市の次世代を担う農業者を激励！「奄美市農業研修生の修了式・入所式」が開催される

7月1日、奄美市農業研究センターにおいて、「令和8年度奄美市農業研修生修了式・入所式」が開催されました。2年間の研修を終えた3名が修了証を受け取り、奄美市内でパッションフルーツや津之輝、かぼちゃなどの栽培に取り組めます。また、新たに1名が2年間の研修でパッションフルーツなどの栽培技術を学びます。修了生からは「農業の厳しさの現実に悩みながらも、上手く作りたいという気持ちになった。就農後も良いものを作り出すことにこだわりたい」「畑を任せられ、栽培管理、収量・品質の厳しさも実感。自然災害の怖さも学んだ。安定した経営を目指し、地域を支える農家になりたい」「農作業や機械操作に四苦八苦したが、諦めず続けることの大切さを学んだ。頑張っていきたい」と抱負を述べられました。農政普及課では、新規就農者が順調な営農展開ができるよう、関係機関・団体と連携しながら、栽培や経営管理に関する技術・知識の習得支援を行ってまいります。



研修修了生・新規研修生と関係機関

2 九州沖縄青年農業者会議で園田氏が九州農政局長賞を受賞

九州沖縄青年農業者会議は各県持ち回りで開催されており、今年は7月8日～9日に鹿児島市で開催されました。大島地区からは、県代表として喜界町の園田裕一郎氏が「ドレインベルトを用いたパッションフルーツの収益性向上」について発表しました。会議では、園芸特産部門8プロジェクト、地域活動部門6プロジェクト、土地利用型作物部門5プロジェクト、畜産経営および経営マネジメント部門で各2プロジェクト、合計23の青年プロジェクトと8名の意見発表が行われ、園田氏は発表者が最も多い園芸特産部門で発表し、最優秀賞である九州農政局長賞を受賞しました。どの発表も非常にレベルが高く、困難な審査となりましたが、園田氏は喜界島特有の湧水問題に対し科学的な見地から解決を図った点が高く評価され、受賞につながりました。今後、3月に開催される全国青年農業者会議で、九州沖縄代表として発表する予定です。



青年農業者会議 発表の様子



青年農業者会議 表彰式の様子



青年農業者会議 発表者と関係機関

3 収量アップを目指して！宇検村でさとうきび夏植講習会を開催

7月9日、宇検村において「さとうきび夏植講習会」が開催され、夏植え栽培の基本技術や栽培管理のポイントについて、栽培暦等を用いて説明したほか、農作業事故や熱中症の予防、農薬の適正利用についても紹介しました。また、宇検村産業振興課からは、ビレットプランタを活用した省力的な植付けや良質な苗の確保について説明がありました。参加者からは、収量向上のための土づくりや土壌管理、鳥獣被害などについて多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。夏植えは、労力分散や省力化が図れるなど、さとうきびの安定生産に向けた重要な取組です。農政普及課では、今後も関係機関と連携し、夏植えの推進などを通じて、さとうきびの安定生産と産地の維持・発展に向けた支援を行ってまいります。



宇検村さとうきび夏植え講習会の様子

4 農産加工への第一歩！瀬戸内町で、基礎知識と技術を学ぶ研修を開催

7月14日から15日にかけて、県立農業大学校の主催により、瀬戸内町のせとうち物産館で「農産加工基礎研修（入門コース）」が開催されました。農産加工に関心のある農業者など延べ18人が参加し、1日目の座学では、農産加工の基礎知識や県内の先進事例について学ぶとともに、受講者同士が現在の加工活動や今後取り組みたい商品開発などについて紹介し合い、活発な意見交換を行いました。2日目の加工実習では、瀬戸内町産パッションフルーツジャムの製造やパパイヤ漬けの真空包装を通して、殺菌方法や糖度・pHなどの測定方法、包装技術を実践的に学びました。受講者からは、「加工技術をさらに学びたい」「賞味期限の設定や食品表示についても知りたい」といった声が聞かれ、農産加工への意欲の高まりが感じられる研修となりました。農政普及課では、今後も関係機関と連携し、農産加工による農業者の所得向上に向けた支援を進めてまいります。



農産加工研修 座学の様子



農産加工研修 実習の様子

5 地場野菜を栽培して地産地消の推進！笠利地区において野菜栽培講習会を開催

7月27日、奄美市の笠利農村環境改善センターにおいて地産地消推進に係る野菜の栽培講習会を開催しました。奄美の地場野菜の推進品目のフル、島らっきょう、ハンダマ、シブリや島ふだんそう（5品目）、これから作付けされる秋冬野菜、さらに次年度の春夏野菜合わせて32品目の栽培について、野菜の生理・生態を交えて説明しました。参加者からは佐仁にんじんの発芽・栽培の仕方、だいこんの内部黒変に対する対策などについてなど多くの質問がありました。今後、管内の他市町村においても講習会を計画しており、地場野菜の振興に向けた支援を継続して実施していきます。



野菜栽培講習会の様子

6 夏本番！瀬戸内町で肉用牛における暑熱対策研修会が実施される

7月28日、瀬戸内町請阿室の牛舎において瀬戸内町技術連絡協議会畜産部会による暑熱対策研修会が開催され、生産者・関係機関合わせて8名が参加しました。農政普及課では、暑熱ストレスが生産性に及ぼす影響や暑さ対策のポイント、熱中症による農作業事故防止について情報提供を行いました。また、実践演習として、牛舎屋根にドロマイト石灰を塗布しました。ドロマイト石灰は、付着性に優れ、剥離しにくい特性があり、屋根に吹き付けることで遮熱効果が高くなるとされています。過去に瀬戸内町で行った実証では、塗布無しの堆肥舎と塗布有りの牛舎温度を比較した際、塗布有りの牛舎の方が日中で最大 5.6℃低く、効果が確認されています。猛暑による生産性低下を防ぐためにも、今後も農家・関係機関と連携しながら、暑熱対策を実践していきます。



暑熱対策研修会 資料による情報提供



暑熱対策研修会 石灰塗布の様子

7 令和8年度農業基礎講座が始まる！

7月28日、奄美市農業研究センターにおいて新規就農者や就農支援センター研修生等を対象とした『令和8年度農業基礎講座』が始まりました。今回は、例年とは趣きを変えて外部講師による講話を企画し、新規就農者や農業研修生、就農志向者、指導農業士会員など総勢37名の参加がありました。まず、名瀬測候所の西山氏からは、「奄美の気象・気候、気象データの活用」について、近年の奄美の気温や降雨の状況や台風襲来、気候変動、その他、農業生産に関わる有益な気象サイトなどの講話をいただきました。次に、奄美市フルーツブランド確立推進員の熊本氏からは、果樹園を台風、季節風などの災害から守るための防風対策や防風垣の設置方法の考え方、併せて指導農業士からの助言もいただきました。今年度は9月末までの5日間にわたり、果樹、野菜、病害虫防除などの9分野の講座を予定し、新規就農者等の営農に関わる基礎知識、技術習得の支援を図ってまいります。



基礎講座 奄美の気象を学ぶ



基礎講座 果樹園地の暴風対策を考える